研究課題　松尾大社所蔵史料の研究資源化

研究経費　五〇万円

研究組織

　研究代表者　　　角田朋彦（駒澤大学）

　所内共同研究者　畑山周平・山田太造・高島晶彦

　所外共同研究者　佐々木創（京都芸術大学）・坪井 剛（佛教大学）・西山 剛（京都文化博物館）・野村朋弘（京都芸術大学）

研究の概要

（１）課題の概要

　本研究では、松尾大社が所蔵する史料群について調査・研究を進め、研究資源化するものである。松尾大社は鴨社とともに山城国の重要な神社として位置づけられ、古代から近代に至るまで豊富な史料を有している。目録・整理されている文書群の他、未整理・新出のものも含め2,000点を超す史料が所蔵されていることが確認できている。史料編纂所では戦前及び戦後の早い時期に史料採訪を実施しているものの、未整理・新出史料については撮影・調査されていないものがある。本研究では、これらの全体像を明らかにしつつ、未整理史料を中心に調査・撮影・目録作成を行い、研究資源化を進めたい。松尾大社所蔵史料が研究資源として公開されることによって二十二社体制の具体的な様相はもとより、東寺や地蔵院、革島家との相論など中世の洛西の姿も解明することができよう。  
　また松尾大社所蔵史料は各時代で豊富な史料を有している。料紙の科学的調査のデータ収集対象としても貴重である。それらの基礎的な情報を学界共有の財産として公開していく。

（２）研究の成果

　新型コロナウィルスの感染拡大の影響によって調査が危ぶまれたが、幸いにして松尾大社の御厚意によってニ度調査・撮影を実施することができた。  
　二〇一九～二〇二〇年度に実施された一般共同研究「松尾大社所蔵史料の調査・研究」（代表：野村朋弘）に引き続き、他の一般共同研究「中近世古文書の多面的分析にもとづく料紙の歴史的変遷の研究」（代表：天野真志）と連携し、新出史料の撮影や光学顕微鏡やデジタルマイクロスコープを用いた料紙の調査・研究、目録整備を実施した。  
　二〇二〇年度に史料一巻（ニ号文書～一一号文書を収録）を史料編纂所にて借用し、修補と調査を実施し、返却を行った。この調査によって一九五〇年代の成巻状況などを把握することが出来た。また更に史料一巻（八九～九七号を収録）を二〇二一年度に借用し修補と調査を実施し、二〇二二年度に返却予定である。なお、借用にあたっての損害保険料を、共同研究費（その他）から支出した。  
　こうした調査・分析によって、既に整備されていた目録の校訂作業と、前近代における伝来の在り方についての知見を得ることが出来た。  
　なお調査・分析した総てのデータを史料編纂所が進める人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業の一環として公開するため、史料編纂所と松尾大社とで覚書の締結を行った。